

陶生町自主防災会の活動視察

- 日 時：平成25年11月3日（日）8：20～9：20
- 場 所：名古屋市立大学病院敷地内公園及び昭和区陶生町町内

【陶生町自主防災会について】

陶生町防災会は、防災まちづくり名古屋一番のモデルをめざし、点の防災から面の防災力へというキャッチフレーズのもと活動をしている団体です。住民アンケートで参加を募り、情報班、消火班、救出救護班、食給水班、本部班といった役割を選んでもらい地域住民が自主的に防災活動にかかわり、地域住民の防災意識を高める活動をしています。

「幸せの黄色いリボン」「笛」を用いた安否確認訓練や災害時要援護者への車椅子での避難などにも取り組んでいます。

【活動の様子】

安否確認訓練

11月3日（日）陶生町自主防災会の活動視察に行ってきました。

当日はやや肌寒い曇天で、会場には訓練のために多くの地域住民が集まっていました。

今回は、実際の災害時の安否確認を想定した訓練で安否確認を終えた各組の住民らが本部に次々と報告にやってきました。

本部の担当者は、地域世帯を網羅した一覧表に報告をうけて手際よくチェックをしていました。

安否確認の訓練はあらかじめ配布してある黄色いリボンを各世帯の玄関先など確認しやすい場所に出してもらうというもので「幸せの黄色いリボン」が出ている世帯は家族全員が無事というものです。一目瞭然で第三者に世帯全員の安否が確認できる画期的な取り組みでした。

また、災害時に自力で避難が困難な災害時要援護者のいる世帯には「呼子笛」を吹いてもらい安否を確認するなど、社会的な自立困難者への配慮もされていました。



地域の各戸に結ばれた「幸せの黄色いリボン」
家族全員無事のしるしです。





メンバーによる仮の要介護者の
車いすによる避難の訓練。

避難所となっている松栄小学校へ
避難経路を確認しながら搬送します。

防災用品が詰められた防災倉庫
テントや椅子、机なども収められてお
り同じ敷地内にすぐ本部が設置できるよ
うな工夫がされています。



実際の防災を想定し、ヘルメット着用や腕章の着用だけでなく、地域内の住民の防災の役割り
も明確になるようにされていました。

防災世帯97世帯のうち訓練には34名が参加。

84世帯で「リボン」確認

19世帯で「笛」確認

自分の住んでいる地域の人々は、自分たちの手で守ろうという高い防災意識と協調性が伝わっ
てくる訓練でした。

今後も、災害時に慌てず協力しあえるまちづくり活動を期待しています。



おむすびの感想

訓練用に設置された本部テントに、本番さながらにヘルメットをかぶった担当者の方々が次々に安否確認の報告をてきぱきとされていました。安否の確認方法も、一軒一軒各世帯に声をかけるのはとても労力と時間が必要となりますが、各世帯に事前に配られた「黄色いリボン」を玄関や窓に掲げてもらい、一目で分かるようになっているのはとてもいいアイデアだと思いました。マンションなどの集合住宅の窓を見ると、黄色いリボンが風にゆれて、全員が安全である様子が「幸せの黄色いリボン」となって表示され、地域の方との連携体制もとれていることが証明されているようでした。

訓練後、課題を確認するなど、実践を意識した真剣な取り組みを通じて、地域への想いが伝わってきました。



ぴよんちゃんの感想

「この世帯は全員無事です」ということを知らせる安否確認を団体独自で考案した「幸せの黄色いリボン」と名付け、理解しやすく伝わりやすいキーワードを使うことで、地域住民への周知を容易にするなど、単に「防災訓練」というだけでなく、地域の住民が親しみやすく取り組みやすい工夫がされており、アイデアが活かされていると思いました。

訓練では、報告する方も報告を受ける方も機敏な動きが印象的で、団体の活動が地域住民に根ざしていると感じるとともに、「自分たちのまちは自分たちで力を合わせて守る」という高い防災の共通意識を感じました。